



# Safe Crop Project News



No.11 2018年7月19日発行

「ベトナム北部地域における安全作物の信頼性向上プロジェクト（2016年～2021年）」は、北部地域2市11省において、「Basic GAP (Good Agricultural Practices)」を始めとする安全作物栽培の技術規範に沿った生産活動、消費者の安全野菜への信頼醸成、及び、多様なサプライチェーンの構築を支援することで、対象地域における安全作物栽培の振興を目指します。

## プロジェクト進捗と今後の計画

本プロジェクトが開始されて、ほぼ2年が経過しました。この機会にこれまでの進捗を総括すると共に、今後の計画について説明させていただきます。

### 1. 全体的な進捗の概況

2016年7月下旬に開始された本プロジェクトは当初の開始の準備の後、10月よりパイロット省のハノイ市（消費地）、ハイズオン省、ハナム省、フンエン省（生産地）において、支援対象農家グループの候補に対するベースライン調査、将来の潜在的な購買者に対する市場調査、消費者の傾向を定性的に分析する消費者調査を行いました。それらの調査結果に基づき、3省（生産地）で7つの支援対象農家グループを選定し、また、パイロット活動の実実施計画及び安全作物生産と食品の安全に関する意識啓発活動計画を策定し、加えてプロジェクトの目標、成果や活動に関する指標も設定しました。そしてこれらに基づき2017年4月より、本格的にパイロット活動及び意識啓発活動を開始しました。

具体的にはパイロット活動については、Basic GAP研修、市場との対話、市場の需要に基づく共同栽培の実施、Basic GAP適用についての圃場での指導、品質向上のための栽培方法の改善、収穫後前処理施設の改善、収穫・前処理・集配の実施、外部検査と監査などを行ってきました。また、意識啓発活動に関しては、ハノイ市の小学生を対象にした安全野菜の教育プログラムやポスターイベント、安全野菜に関するウェブサイト構築に取り組みました。

セミパイロット省（タイビン省、ビンフック省、フートー省）に関しては、各省の主導でベースライン調査、市場調査を実施し、対象農家グループの選定を行い、同時にGAP及びマーケット研修や市場の対話の部分的な実施或いはパイロット省でのパイロット活動の視察を行ったところです。

これまでの活動で得られた経験を基に、2018年10月以降はパイロット省の支援対象農家グループを拡大するとともに、セミパイロット省においても本格的なパイロット活動並びに意識啓発活動を進めていく予定です。

### 2. これまでの成果

プロジェクトの開始から約2年という段階ではありますが、これまでの成果を簡単にまとめてみたいと思います。

まず、本プロジェクトではプロジェクト目標に対する達成度を測る指標を3つ設定しておりますが、確認する時期としては少し早いかもしれませんが、それぞれの指標の2018年4月現在の達成度は右表の通りです。

第1の指標に関しては、現在は未だパイロット活動を開始して、経験を積んでいる段階であり、サプライチェーンのモデルを提案する段階ではありません。第2の指標は多くの共同組合の組合員が個別に生産し、個別に販売している現状では容易な目標値

指標	目標	達成値	割合
1. 支援対象地区で安全作物の最低3タイプのサプライチェーンモデルを開発する。	3	-	-
2. 支援対象地区で共同販売に参加する農家の割合が50%に増える。	50%	39%	
3. 支援対象地区で信頼できる安全作物生産面積が180ha増える。	180ha	50.85ha	28%

ではありません。現時点で39%ということではありますが、今後第3の指標に基づいて支援対象面積を拡大していく中でこの第2の指標を向上させるためには、関係者の更なる努力が必要です。次に各活動別の成果について説明します。

#### (1) 生産及び流通

生産に関しては、Basic GAP等に基づく安全野菜生産の実践に加え、生産物の市場性を高めるために品質向上のための栽培方法の改善を図りました。具体的には堆肥の導入、新品種の種子の導入、スポンジトレイの使用等新しい育苗方法の導入、グリーンハウスの改善/建設・マルチの改善・不織布等新しい農業資材の導入などを日本企業の技術も活用しながら試みており、効果が高いと判断されたものについては利用の拡大を図っています。

市場との対話に関しては、選定された7つの支援対象農家グループ及び市場調査の結果等で選定された潜在的なバイヤーそれぞれについてプロフィールを作成し、これらを利用しながら、相互に関心を持つ支援対象農家グループとバイヤーとの1対1のマッチング、全支援対象農家グループと関心のあるバイヤーが一堂に会するマッチングイベント（本ニュースレター第6号や第8号でお伝えしましたビジネスフォーラム）などを通じて交渉を続け、売買契約の合意を図っていきます。その結果2018年4月現在で、45回以上の1対1マッチングを行い、25以上の取引が成立しています。

このように結ばれました各バイヤーとの契約に基づきまして、合意された生産・出荷量を確保するために、本ニュースレター第9号でご紹介したように農家グループ側では構成員共同での栽培計画を作成し、その計画に沿った生産を進めるとともに、合意した品質や安全基準にもとづき、共同出荷を実行しています。そして毎日の共同出荷の経験から、よりよい生産出荷体制の整備を進めています。なお、効果的な安全野菜の共同出荷に不可欠な前処理施設等の改善も個々の農家グループの状況に応じて行いました。

この流通及び次に述べます意識啓発に関する活動におきましても日本の企業にご協力いただいております。

## (2) 意識啓発

これまでの活動での中心的な成果は、本ニュースレター第7号でご紹介しました学校教育プログラムの実施です。ハノイ市街12地区、全194校の小学4年生を対象に52,514の安全野菜の教育プログラムリーフレットを配布するとともにそのうち30校の小中学生10,350名についてはリーフレットを学習した後帰宅後母親にその内容を説明し、母親と一緒に安全野菜の消費を進めることを約束する文書を作成しました。更にそのうち10校については「安全野菜と明るい未来」をテーマとしたポスター描きイベントを開催し、約1,500名が300の作品を制作し、その中から金賞等のポスターを選考しました。これらポスターやリーフレットはポスター展示会、学校教育イベントの実施（ハイズオン省）、女性連合の会合など意識啓発のために幅広く活用しています。加えて、本ニュースレター第10号でご紹介したように、ハノイ市のハノイプロモーションエージェンシーのウェブサイトへ安全作物販売店検索、安全作物生産者検索、安全作物関連認証の教育など機能を備えた安全作物ウェブサイトの構築を行いました。

## 3. 今後の計画

今後の計画としては以下のようなことを予定しています。

(1) 2018年10月以降セパイロット省の対象農家グループへの本格的支援開始に加え、パイロット省でも対象農家グループ数

## 対象グループの紹介

プロジェクト対象グループ紹介の第6回目は、ハナム省のHa Vi組合です。設立（旧農協から新農協に転換）は2013年で、パイロット活動への参加組合員数は27農家、約11.5haの農地で安全野菜を生産しています。主要作物の冬場のキャベツを中心に、ブロッコリー、コールラビ、豆類、トマトなど多様な野菜を栽培しています。

### 特徴1 「実践を通じてリーダーたちの主体性が大きく向上」:

Ha Vi組合は、前回のニュースレターでお伝えしたYen Phu組合と同様に、2010-2013年に実施された安全作物のフェーズ1プロジェクトでも対象（旧農協として参加）でしたが、GAPを導入後も安全作物として販売できていないという課題がありました。本プロジェクトでは、組合リーダーに対してマーケティング研修を実施しましたが、リーダーたちの経験不足が原因で、研修で学んだ理論を実行できず、組合活動が停滞する状況が続きました。ところが、省とコミュニケーション（社）の人民委員会が仲介したマッチングでバイヤーとの契約が締結されたことで、状況が一転しました。これまでは消極的であったリーダーたちですが、共同出荷の実践を通じて必要な作業を具体的にイメージできたことで、主体的に活動を始めるようになりました。現在では省内のスーパーマーケットや食堂をはじめ6社との契約締結に至っています。リーダーたちは、「共同出荷の参加農家率はここ2カ月間でも向上しており、2018年5月では75%であったが6月時点では90%だ」、「バイヤーからの注文が多いため生産量を増やしたい」と自信を深めています。

### 特徴2 「生産活動の改善にも着手」:

上記の共同出荷の成功体験は生産活動の改善にも良い影響を

を拡大する。

(2) バイヤーに関してはこれまでは、まずは各支援対象農家グループにとって基幹的なパートナーとなりえるハノイ市のスーパーマーケット等大口のバイヤーを中心にサプライチェーンの構築に焦点をあてておりましたが、バイヤーの多角化による経営安定を目指す観点から、これに加え各省内のバイヤーの開拓も手掛ける。

(3) 上記2.のプロジェクト目標の指標に関係がありますが、将来ベトナム側だけで実行できるように、安全野菜の生産管理方式及びサプライチェーンモデルの確定を行っていく。

(4) 意識啓発活動に関しては、高校生を対象にした安全作物の学校教育プログラムや高齢者を対象にした直接対話型のセミナー等を進める。

## 4. ご挨拶

最後に私事になりますが、7月下旬に2年間の任期を終了し、日本へ帰国いたします。このプロジェクトがここまで進められたのも皆様のご支援があってこそのことと考えております。大変ありがとうございました。プロジェクトは後3年続きますので、皆様の引き続きのご支援を賜りますようお願いいたします。

（熊代輝義／チーフアドバイザー）

与えました。2017年の冬作でプロジェクトが苗作りや堆肥作りを指導した際には、農家の意欲はあまり高くありませんでした。ところが、共同出荷を通じて組織が活性化すると同時に生産活動に対する関心も高くなり、現在では自己資金で苗生産用の資材の購入を検討している農家もいます。



主要作物のキャベツを手にする  
Ha Vi組合の代表

### 今後の課題「組合活動の強化」:

今後は組合活動の更なる強化が課題です。具体的には以下の3点があります。①共同出荷体制の強化。現在は特定のリーダーに作業が集中しているため、リーダーを補佐する人員の育成が必要です。②共同出荷量の増加。対策としては、対象作物の栽培面積の拡大、参加農家数の増大、栽培技術の改良による生産量の拡大が考えられます。③収穫後処理施設の改修。これはHa Vi組合からの要望です。目的は、衛生的な環境下で需要に応じた選果選別・パッキングを行うことで新規バイヤーを獲得すること、および、販売単価を上げることです。施設を十二分に活用するためには利用計画の策定と妥当性の確認が必要であるため、プロジェクトでもその支援を開始しました。

リーダーたちや組合員の自信や意欲を更に高めるために、プロジェクトでは今後も生産から販売に至る幅広い支援を行っていきます。そのためプロジェクトでは、施設の増改築に対する技術面、資金面から支援を行っています。こちらの施設は今年7月頃に完成する予定です。

## 皆様のご意見・ご感想をお待ちしております

### JICAプロジェクト事務所

住所：Room 201, Department of Crop Production, Ministry of Agriculture and Rural Development,  
2 Ngoc Ha Str., Ba Dinh Dist., Hanoi, Vietnam  
Tel/Fax：+84 24 3244 4373